

日常点検項目

●エンジンルームをのぞいて、点検●

点検項目	点検内容	点検をしないと・・・
①ウインドウォッシャー液の量	ウインドウォッシャー液の量が適当かを点検します。ウォッシャー液が空の状態 でウォッシャー・スイッチを入れると、ポンプが破損することがあるので注意し ましょう。	「噴射状態のトラブル」と同様に、ウインドウォッシャー液が不足すると、フロ ントガラスの汚れを落とすことができず、視界不良の中での運転がしいられ ます。特にどろんこ道を走るアウトドア派はチェックを欠かせません。
②ブレーキ液の量	ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインとの間 にあるかどうかを点検します。液量が減少している場合は、漏れが原因な のか、ブレーキ・パッド等の摩耗が原因なのか確かめる必要があります。液 の異常な減りが見られた場合は、早急に整備工場などに相談しましょう。	ブレーキ液の量が下限ラインより不足すれば、当然のようにブレーキの制 動力に大きな影響を及ぼし、その危険度も高まります。リザーバ・タンク内 のブレーキ液量の不足を発見したら、整備工場などでその原因を徹底的 に究明しましょう。
③バッテリー液の量	バッテリーの液量が規定の範囲(UPPER と LOWER の間)にあるかについ て、車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、 体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。	バッテリー液が不足すると、蓄電機能が低下し電気の供給がストップしま す。また、バッテリーの液量が LOWER 以下で使用しますとバッテリーが破 裂(爆発)するおそれがありますので、すみやかに規定の範囲まで精製水 を補充してください。
④冷却水の量	ラジエーターのそばに付いているリザーバ・タンクは外側から冷却水が一目 で見えるようになっています。この冷却水の量が、上限ラインまで入ってい れば合格。この冷却水が下限ラインに近い、それより少ない場合は、上 限ラインまで冷却水を補充してください。	エンジンからの熱を奪った冷却水は、ラジエーターで冷やされます。冷却水 が不足するとラジエーターの機能がうまく作動せず、オーバー・ヒートの原因 になります。漏れによって冷却水が不足することもあります。
⑤エンジンオイルの量	エンジンに付いているオイル・ゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭き とってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見 ます。ゲージの先端についている 2 本のラインか、ギザギザ部分の目印の 中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側 にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合も交換しましょう。	エンジンオイルはエンジンがスムーズに回転するための潤滑油。量が不足 したり、汚れがひどいとエンジンへの負担が高まり、クルマの寿命を縮めて しまいます。定期的にエンジンオイルを交換することが大切です。

①ウインドウォッシャー液の量の確認



③バッテリー液の量の確認



④ブレーキ液の量の確認



⑤エンジンオイルの量の確認



●クルマのまわりを回って点検●

点検項目	点検内容	点検をしないと・・・
⑥タイヤの空気圧(含むスペア・タイヤ)	タイヤの空気圧が適当であるかを点検します。空気圧はクルマの走行時の安定性や経済性に大きく影響します。タイヤの接地部のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。	タイヤの空気圧が不足すると、路面への接地面が多くなり、走行時の安定性が悪くなると同時に、燃費も悪くとても不経済です。逆に空気圧が高すぎると走行時のバランスが悪くなり、ハンドル操作が難しくなります。
⑦タイヤの亀裂、損傷および異常な摩耗	タイヤの亀裂や損傷の有無を目で確認するとともにタイヤの異物チェックも入念に行いましょう。タイヤに刺さった釘や石に気付かずに走行すると、パンクやバーストのトラブルに見舞われる危険があります。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。	タイヤの亀裂や損傷に気付かずに走行すると、パンクやバーストの危険が急速に高まります。特に高速運転時のパンクやバーストはとても危険で、他のクルマを巻き込んだトラブルにつながる可能性があります。
⑧タイヤの溝の深さ	タイヤの亀裂や損傷に気付かずに走行すると、パンクやバーストの危険が急速に高まります。特に高速運転時のパンクやバーストはとても危険で、他のクルマを巻き込んだトラブルにつながる可能性があります。	雨天時にすり減ったタイヤの状態で行くのは、とても危険な行為です。ブレーキがききにくく、スリップによるトラブルが起きやすいからです。また、亀裂や損傷と同じようにパンクやバーストも起きやすく危険です。
⑨ランプ類の点灯、点滅およびレンズの汚れ、損傷	クルマにはヘッド・ランプ、車幅灯、パーキング・ランプ、ストップ・ランプ、テール・ランプ、ウinker・ランプなど、多くのランプが付いています。これらのランプは正常に点灯してこそ、他車に対する意思表示をしっかりと伝える役割を果たすことができます。点灯の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。また、反射器の汚れも落としましょう。	ヘッド・ランプやウinker・ランプなどランプ類の損傷は、運転に支障をきたすだけでなく、トラブルに巻き込まれることも多く、特に夜間走行は危険です。点灯しているかどうかクルマを降りて一つひとつ確認しましょう。

⑥タイヤの空気圧確認



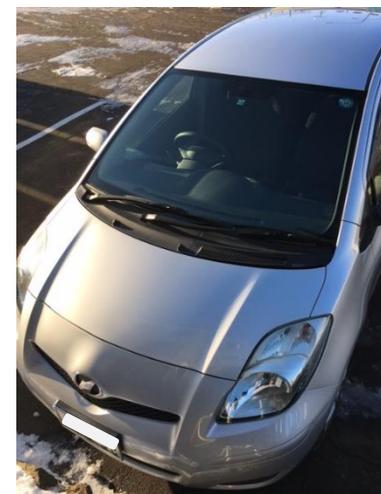
⑦タイヤの亀裂・損傷・摩耗確認



⑧タイヤの溝の深さ確認



⑨ランプ類の確認



●運転席に座って点検●

点検項目	点検内容	点検をしないと・・・
⑩ブレーキ・ペダルの踏みしろおよびブレーキの効き	運転席に座ったら、まずブレーキ・ペダルのチェックをしましょう。エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたいうえ、ブレーキ・ペダルを踏み込んだとき、床板との間(踏みしろ)が適当かどうか確認します。また、その踏みごたえが「あまい」「かたい」など、いつもと違うなと感じたら要注意です。踏みごたえの違いの判断は、新車時や定期点検直後のブレーキ・ペダルのフィーリングで判断するといいいでしょう。	ブレーキはスピードを「減速させたり、止めたりする」大切な制御装置です。ききが甘くなると停止位置がのびたり、緊急時の対応が遅れてしまい危険です。「踏みごたえがいつもと違う」と感じたらすぐに修理しましょう。
⑪パーキングブレーキレバーの引きしろ	一般にサイド・ブレーキと呼ばれている駐車ブレーキは、レバーにつながっているケーブルで、ブレーキを機械的に動かし、ロック状態にさせる働きをします。ブレーキ・レバーをいっぱい引いたときに、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後との違いを比較してください。	駐車ブレーキの引きしろが多くなると、ブレーキのききが悪くなり、坂道など傾斜のある場所に駐車すると、クルマが動いてしまう危険があります。使用頻度が多いだけに、日常点検で引きしろをきちんと確認しましょう。
⑫ウインドウウォッシャーの噴射状態	ウインドウウォッシャー液の噴射の向きおよび高さが適当かを点検します。	ウインドウウォッシャーのノズルにゴミがつまると、洗浄水を噴射できずに、フロントガラスが汚れたまま運転することになり、とても危険です。雨の日の夜は特に危険で、視界が悪いと走行できない状態になります。

⑬ワイパーの拭き取りの状態	ワイパーを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウォッシュ液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパーのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウォッシュ液を噴射してからワイパーを作動させましょう。	ガラス面に直接あたるワイパーのブレード・ラバーは消耗品で、適度に交換しないとすり減って、汚れの拭き残しが生じ視界を悪くします。ウインドウォッシャーと同様に、雨の日に無くてはならないクルマの必需品です。
⑭エンジンのかかり具合および異音	エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時およびアイドリング状態で、異音がないかを点検します。	「エンジンの調子がおかしい」とわかっていて運転するのは無謀です。高速道路でエンストするなど危険がいつぱい。普段から調子の良し悪しを判断し、少しでもおかしい点があったら整備のプロに確認してもらいましょう。
⑮エンジンの低速および加速の状態	エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、また、エンスト、ノッキングなどを起こすことなく、スムーズに回転するか、走行するなどして点検します。	運転中にエンジンが空吹き状態になったり、ガクンガクンとノッキングしてエンストを起こすこともあり、混雑時には追突の危険性さえあります。日常点検時に低速・加速の状態を把握することも大切な安全確認です。

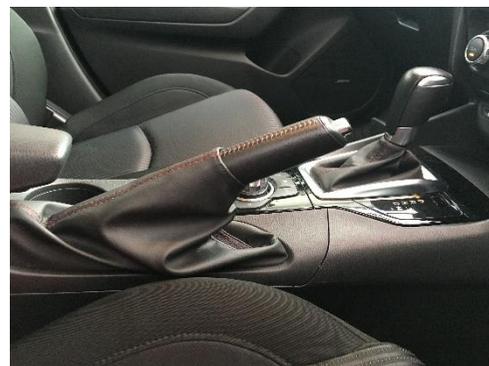
⑩ブレーキ・ペダルの踏みしろの確認



⑬ワイパーの拭き取りの状態の確認



⑭エンジンのかかり具合の確認



⑮エンジンの低速・加速の確認

